

### 会議所を身近な存在に

山形商工会議所議員  
会員交流委員会委員長  
武田 弘氏



師走。1年の締めめの月にあたって、まずもって会議所会員交流委員会の事業に際して多くの方々が協力してくださったことに感謝申し上げます。9月の会員ゴルフ大会は、皆さん

の精進よろしく前夜来の雨が上がり快晴の下、50名を超す会員が丁々発止のやりとりをしながらプレーを楽しみました。そして10月の仙台方面への視察研修会は清野伸昭会頭をはじめ120人が参加、バス3台に分乗しての日帰りの旅は大いに盛り上がりました。会社の同僚、気の合う友人、仲睦まじいご夫婦、若い女性グループと様々な方の楽しむ光景に安堵した次第です。

会員交流委員会は清野会頭1期目がスタートした平成22年11月1日に総務、企画、まち賑わいと共に4つの委員会の一つとして誕生しました。私は建設部会の推薦により委員となり、はからずも第1回委員会において委員長に選任されました。委員会の使命は文字通り、「会議所は身近な存在

です」「敷居は高くありません」という事を知っていただくことで、そのために気軽に参加できる交流の場を設けたわけです。

私のことを紹介します。昭和12年、山形市に生まれました。昭和30年県立山形工業高校建築科を卒業したものの大変な就職難で、1年間は学校西側にあった県工業試験場で勉強を兼ねて実習の手伝いをし、翌年創業したばかりの鈴木建築設計事務所に就職しました。

創業者の鈴木健吉氏(会議所議員・建設部会副部長、平成8年死去)は寒河江市出身。当初から山形県内では前例が少なかった高齢者や障害者を対象とした福祉施設の設計に、試行錯誤しながら取り組み、今日の事務所の礎を築きました。

振り返ってみれば鈴木社長と共に私の設計人生はあり、来年で60年になろうとしています。昭和39年の東京五輪をメインとした高度成長時代、昭和48年、51年前後のオイルショック、バブル崩壊後の低成長時代、そして現在の少子高齢化等々、時代の波を建築設計という仕事を通じて身を持って体験してきたこととなります。

その間、福祉施設や文教施設を中心とした公共施設の設計や、個人住宅を始めとする生活設計において、「顧客第一」「地域社会に貢献する作品を提供する」「設計の革新を常に心がける」「研ぎ澄まされた精神で設計する」を社の理念に掲げ、皆様のお手伝いをさせていただきました。同時に大切なことは「誠心誠意」「基本を守って一步一步」ということではないでしょうか。長年の経験から得た教訓です。裱(かみしも)を脱いで表現すれば、建物を引き渡して2年3年後に施工主から、「使い易い、細かな所まで気を配っていますねえ」という言葉をいただいた時のうれしさです。どの仕事にも共通するでしょうが。

さて、少し先の話ですが、来年3月7日に会員交流委員会が企画する「会員の集い」が山形ランドホテルで開かれます。毎回、著名な方を招いて講演会を行っていますが、今回のゲストは日本テレビの人気長寿番組「笑点」でお馴染みの落語家林家たい平師匠です。どんな話が飛び出すやら。引き続いて行われる会員交流パーティーには、やまがた舞子が登場します。ふるってご参加ください。会員の方々の交流促進にお手伝いできることは、仕事とともに私の元気の源でもあります。

(株)鈴木建築設計事務所取締役所長